

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。ここに第121期第1四半期（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）の営業の概況をご報告申しあげます。

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、米国は回復し、欧州では持ち直したものの、中国の成長鈍化及び新興国の足踏み状態等により、緩やかな回復となりました。わが国経済は、政府の経済対策に加え、公共投資や設備投資の増加に支えられ回復基調で推移したものの、消費税増税前の駆け込み需要の反動により個人消費等には弱い動きが見られました。

このような状況下、当社グループは、グローバルでの“成長”と高収益体質への“変革”を基本方針とした中期連結経営計画「Growth & Change 2015」を推進してまいりました。その一環として、ASEAN地域での需要増加に対応するため、子会社であるトピー パリンダ マニファクチャリング インドネシア（インドネシア西ジャワ州）においてトラック用ホイールの生産を開始する等、企業価値の一層の向上に努めてまいりました。

さらに、鋼材の適正な販売価格の形成を図るとともに、需要に応じた生産体制の構築や生産性の向上等のコスト改善にも引き続き取り組んでまいりました。

今後のわが国経済は、政府が取り組む経済対策により、緩やかに回復していくと期待されるものの、電力をはじめとする諸コストの上昇、米国における金融緩和縮小による影響、中国やその他新興国の経済動向等に不安材料があり、当社グループを取り巻く事業環境は厳しい状況が継続するものと思われまます。

このような経営環境下、当社グループは、中期連結経営計画「Growth & Change 2015」を推進する中で、成長が見込まれる海外市場に対して積極的に事業展開を図るとともに、国内のモノづくり基盤を強固なものとすることで、環境変化に強い事業構造を確立し、企業価値の一層の向上に努めてまいります。今後も、コーポレートメッセージ「One-piece Cycle」が表す「素材から製品までの一貫生産」の優位性を発揮し、トピー工業グループの一貫利益の追求とさらなる躍進を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

平成26年8月



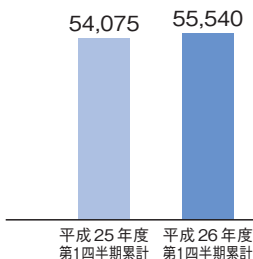
代表取締役社長

藤井 康雄

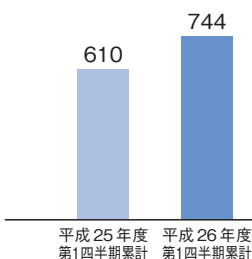
連結業績の推移

(単位：百万円)

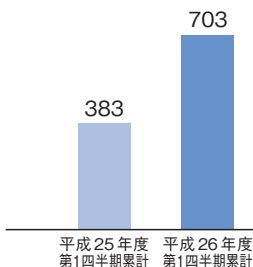
売上高



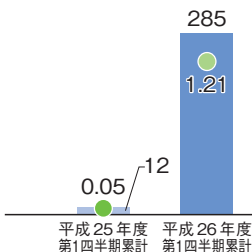
営業利益



経常利益



四半期純利益 (■) 1株当たり四半期純利益 (●) (円)



四半期連結貸借対照表 (要約)


(単位：百万円)

科目	平成25年度末	平成26年度 第1四半期末	科目	平成25年度末	平成26年度 第1四半期末
資産の部			負債の部		
流動資産	98,349	100,668	流動負債	82,192	77,588
固定資産	134,365	136,828	固定負債	54,303	63,348
有形固定資産	101,602	103,389	負債合計	136,495	140,937
無形固定資産	1,270	1,234	純資産の部		
投資その他の資産	31,492	32,204	株主資本	90,584	90,448
資産合計	232,714	237,497	その他の包括利益累計額	3,779	4,163
			少数株主持分	1,855	1,947
			純資産合計	96,219	96,560
			負債純資産合計	232,714	237,497

セグメント別の営業概況

鉄鋼事業

売上高 17,651百万円 


営業利益 792百万円 

電炉業界は、需要は前年同期並みに推移したものの、電力をはじめとする諸コストの上昇により、厳しい環境が続きました。

このような状況下、当社グループは、適正な販売価格の形成や徹底的なコストの削減に努めました。

自動車・産業機械部品事業

売上高 34,676百万円 

営業利益 912百万円 

自動車業界は、消費税率引き上げに伴う需要の反動減があったものの、新型車投入効果等もあり、国内生産台数は前年同期を上回りました。一方、建設機械業界は、東南アジア市場の低迷及び鉱山機械需要が低調に推移したため、厳しい環境になりました。

このような状況下、当社グループは、乗用車用ホイールにつきましては、販売が好調に推移いたしました。さらに、あらゆる改善諸施策にも継続して取り組んでまいりました。

その他

売上高 3,212百万円 

営業利益 93百万円 

売上高 55,540百万円

営業利益 744百万円

鉄鋼事業

17,651百万円
31.8%

鉄鋼事業

792百万円
44.1%

その他

3,212百万円
5.8%

その他

93百万円
5.2%

自動車・産業機械 部品事業

34,676百万円
62.4%

自動車・産業機械 部品事業

912百万円
50.7%

※セグメント別の営業利益及び構成比は、調整額調整前の数値で表示しております（合計1,798百万円）。

連結業績の予想

	平成25年度 実 績	平成26年度 第2四半期累計 予 想	平成26年度 予 想
売 上 高	234,682百万円	117,000百万円	244,000百万円
営 業 利 益	5,308百万円	2,100百万円	6,600百万円
経 常 利 益	4,485百万円	1,600百万円	5,700百万円
当 期 純 利 益	1,914百万円	700百万円	3,600百万円
1株当たり当期純利益	8.08円	2.96円	15.20円

配当の状況

	平成25年度 実 績	平成26年度 予 想
第2四半期末	0.00円	1.00円
期 末	2.00円	3.00円
合 計	2.00円	4.00円



敷地面積 133千㎡ 従業員数 426人（単体・2014年3月末現在）
生産品目 乗用車・商用車用スチールホイール、産業車両・
建設車両用スチールホイール

綾瀬製造所は、直径が8インチの小型ホイールから世界最大径である63インチの超大型ホイールまで、目的に応じたあらゆる種類のスチールホイールを製造しており、固有技術と独自の生産方式により、他社の追従を許さない圧倒的な品質と軽量化を実現しています。

綾瀬製造所で製造されるホイールは、トラックやバスのほか、大規模鉱山のような過酷な環境下で使用される超大型ダンプトラックなどに装着され、その実績と信頼性により高いシェアを占めています。加えて世界最大の建機メーカーによる品質・コスト・納期の総合評価制度では、2年連続最高評価をいただいています。

また、羽村工場では、顧客のラインと連動してホイールとタイヤの組み付けを行っています。

